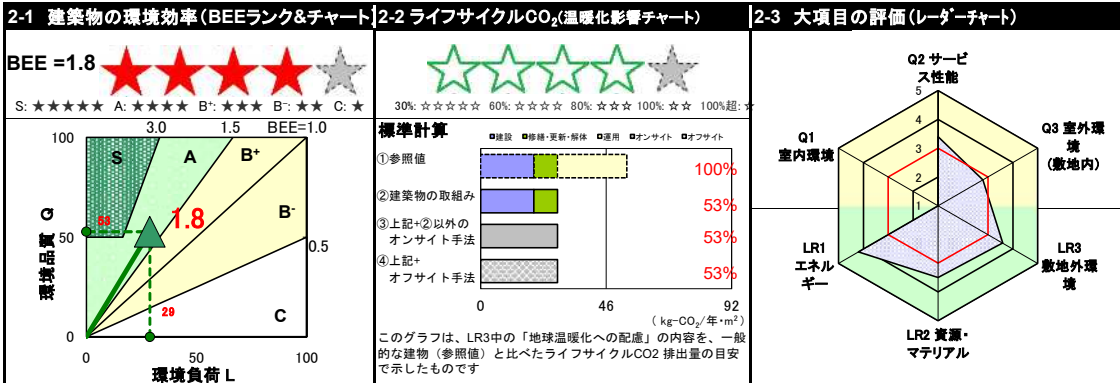
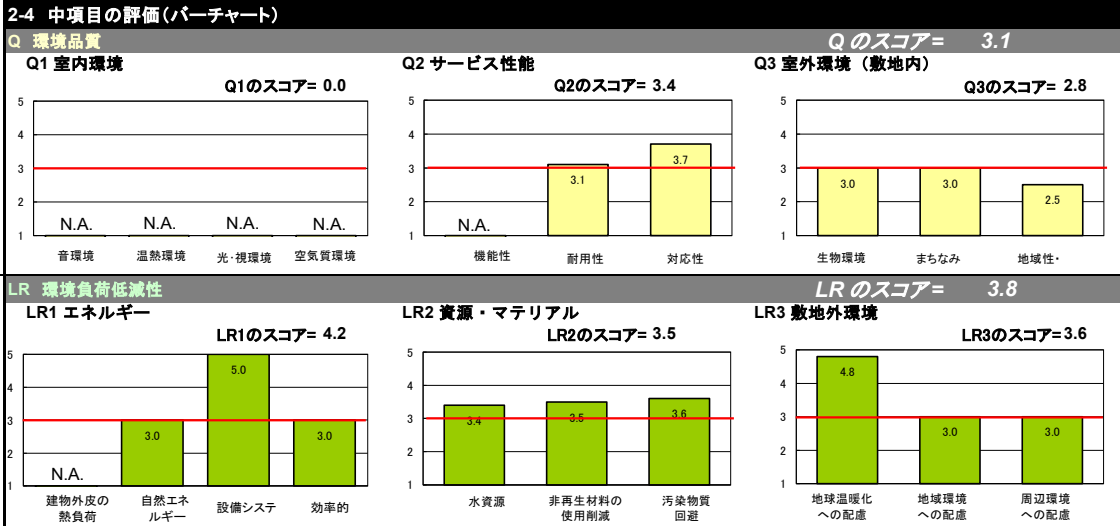




評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社マキタ 岡崎工場 新F棟北	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県岡崎市合敷木町字渡嶋18-1他3筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	26 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,908 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年2月 予定	評価の実施日	2026年4月3日
敷地面積	115,011 m ²	作成者	成瀬則幸
建築面積	4,079 m ²	確認日	2026年4月3日
延床面積	13,946 m ²	確認者	玉井 秀一



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.8	3.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.4	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	36.8 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
	＜外装材に使用した地域性のある材料＞
	なし
	＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社マキタ 岡崎工場 新F棟北

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄					建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		独自基準	重点項目						評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質															3.1
Q1 室内環境															-
1 音環境															-
1.1 室内騒音レベル									3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音									-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能									-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能									-	-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-	-	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-	-	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音									-	-	-	-	3.0	-	-
2 温熱環境									-	-	-	-	-	-	-
2.1 室温制御									-	-	-	-	-	-	-
1 室温									3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能									3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性									3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御									3.0	-	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式									3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 光・視環境									-	-	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用									-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率									3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口									-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備									3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策									-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御									5.0	-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度									3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御									3.0	-	-	-	3.0	-	-
4 空気質環境									-	-	-	-	-	-	-
4.1 発生源対策									-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質									3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 換気									-	-	-	-	-	-	-
1 換気量									3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能									3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮									3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理									-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視									3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御									3.0	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能									-	-	0.43	-	-	-	3.4
1 機能性									-	-	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ									-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性									3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応									3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画			独自						3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性									-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース									3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画									3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理									-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計									3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保									-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性									0.5	3.1	0.52	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能									3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	3.3	0.33	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数									-	3.0	0.23	-	-	-	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔			②						-	3.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔									-	3.0	0.09	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									-	3.0	0.08	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									-	5.0	0.15	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔									-	3.0	0.23	-	-	-	-
2.4 信頼性									0.1	3.2	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備									3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備									3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備			②						3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法									3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備									3.0	3.0	0.20	-	-	-	-

主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上使用

節水型大小便器。

3 対応性・更新性				0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		3.9m以上。	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.035。	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		更新、修善が出来るようケーブルラックで配線している	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		更新、修善が出来るようケーブルラックで配線している	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型大小便器。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	アスファルト舗装材:再生砕石	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	外壁金属パネル材	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWPが低い発泡剤(ロクソール吹付)とグラスウール使用	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率53%	-	4.8	0.33	-	-	-	4.8
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器使用無し	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	十分な駐車場および駐輪場を設置	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE: 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社マキタ 岡崎工場 新F棟北

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19		
③ 敷地内の緑化					3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:36.8%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社マキタ 岡崎工場 新F棟北

計画上の配慮事項	
総合	緑化面積を広くすることで、社員の働きやすさなどを考慮している。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	電気設備は、ケーブルラックによる配線を計画。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯について、周囲に死角となる場所がない。
LR1 エネルギー	LED照明を使用し、消費エネルギーを抑えるように計画。
LR2 資源・マテリアル	砕石敷き(路盤、縁石、U字溝)に再生砕石(骨材)を使用する予定である。
LR3 敷地外環境	既存建物とマッチする色彩計画。
その他	特になし。